

# 協力隊 が行く!

今月の担当は  
中崎隊員です!



こんにちは。地域おこし協力隊の中崎千晶です。

今年は協力隊任期の最終年度。目標である起業に向かって頑張りたいと思います。



【協力隊任期3年目】

早いもので、この4月で地域おこし協力隊3年目となりまして。2年前に枕崎市に住むようになったから、たくさんの方々に助けていただき、ここまでやってこれました。本当にありがとございます。赤子のようだった子も2歳となれば歩き出し、いろいろな物事が分かってきます。私も同様に枕崎のことがいろいろな面から分かってきて、単なる移住者ではなくなってきました。

外から見ると中から見るものとは世界が違います。さまざまな課題や、もつと枕崎が飛躍できると思うことなど。住むといろいろなことが分かってきました。

そして、幸田隊員が3月で地域おこし協力隊を卒業されました。私より一回り以上違う世代ですが、とても落ち着いていて先輩ということで、最初は枕崎市内を一緒に回ってくださいました。頼れる先輩でした。幸田隊員、3年間お疲れ様でした!

【素晴らしい出来事】  
3月に畑を整備していたとこのこと、ネピアグラスという牧草がだんだんと大きくなり畑に浸食し、日当たりも悪くなってきました。

最初は1人で草刈りをしていましたが、うちが明かすいつもお世話になっていた方に協力をお願いしました。ネピアグラスが生えた部分を刈ってもらい、部分的には綺麗になりました。

そして数日後、畑に行ってみると・・・なんてことでしよう! (某リフォーム番組の様に隣の段の畑の石垣が見えるほど畑が綺麗になっていました。石垣の上から垂れ下がる木は全て切れ、草も刈られてスッキリしています。畑の日当たりはとて良くなり、広く感じるようになりました。

どなたが畑を!?と調べて周辺の方々に伺ったところ、近くの集落出身の方が草刈りをしてくださいました。後日、畑を綺麗にしてくださった方にお会いすることができました。お礼を言ったところ、その方は「自分が育った集落が荒れていくのが寂しいからだよ。(わたしが)畑を作ってくれていたの綺麗にしました」とのお言葉を頂きました。

畑の管理はとて大変ですが、このような形で協力してくださる方がいらつしやることに對して大変嬉しく思いました。目標に向かって今後も頑張っていかなければ!と感じた出来事でした。

## まくひとしごと 枕崎 × 人 × 仕事 No.13

### 清康園 / 茅野町

「枕崎 × 人 × 仕事」では、枕崎にあるさまざまな仕事と、その仕事に携わる人を紹介します。初回の今月は、若きお茶農家兄弟取材しました。



県内でも有数のお茶の産地である枕崎。今回は、兄弟でお茶農家として働く2人を取材しました。

兄の康輝さん(写真右は、別府小・中学校出身で、川辺高校を卒業後、長崎の大学へ進学しました。大学を卒業後、実家へ戻り、お茶農家として働きはじめました。弟の北斗さん(写真左)も、別府小・中学校出身で、加世田常潤高校へ進学し、その後、県立農業大学でお茶について学びました。経済連の茶事業部で研修生として1年間働いた後、現在に至ります。お茶農家でも後継者不足が問題とされる中、兄弟で就農することはめずらしいことです。

松崎さんの家は、祖父の代からお茶農家を営み、現在は主に



松崎 康輝 さん (25)  
松崎 北斗 さん (23)

家族4人で経営しています。父と弟の北斗さんが工場の運転を行ない、母がお茶の芽を摘む作業を、兄の康輝さんは運搬作業や葉に届く日光の量を制限し、渋味を抑え旨味を増すための被覆作業を行います。お茶の収穫時期である4月中旬から10月にかけては、親戚の手伝いをもらいながら、朝早くから夜遅くまで作業に取りかかり、多忙を極めます。

幼い頃から両親がお茶農家として働く姿を見てきた2人にとっては、この仕事に就くことは自然なことでした。学生時代は学校帰りに茶工場に寄り、茶工場での学校の宿題をし、両親の手伝いをしてきました。一度は違う道に進もうとした兄の康輝さんも「大学の長期休みの際、手伝って楽しかった」とお茶農家として働くようになったきっかけを振り返ります。

お茶農家にとっては、一番茶の出来が1年間の収入を左右します。「自分が納得できるお茶を作り、できるだけ良い値段で買ってもらいたい」と話す兄の康輝さん。「最終的には自分1人で工場をこなせるようになりたい」と弟の北斗さんも、これからの収穫に向けて意欲を見せます。

## 市長

# コラム

vol. 25



### 文責

こんにちは。前田祝成です。

文責(ぶんせき)辞書によると、「書いた文章についての責任。談話を記事にした場合などの、書かれた文章についての責任」と説明されています。

このコラムを始めてから2年が経ちました。これまで投稿したコラムは24編、それぞれに自分の思いを綴ってきました。市長に就任してから、いろいろなところで挨拶をしたり、文章を残したりすることが増えて、一言一言に気持ちを込めなければならぬという思いが、日を重ねるごとに強くなるのを感じます。このコラムのように文が残るもの、つまり「書きもの」については、特にその思いが強くなります。そういう中で意識するのが「文責」ということ。

このコラムは、今回で25編目。毎月、広報まぐらぎに寄稿するたびに、多くの市民の皆さんに読んでいただくことになりました。そのほか、私は3年前からブログを綴っています。これまで投稿した数は、900近くになります。投稿した日には、1日で200から300の数のアクセス数があります。多い時には1日1000アクセス近くにもなることもあります。それだけ多くの人の目に触れる文章、そこには「書く」ことに対する責任が当然のように伴います。決して、書くことが得意なわけではありませんが、伝えるべきことは、常に自分に確認しながら、書くようにしています。

以前の職場で、広告の仕事をしていたことも、自分にとってプラスになっているのかもしれない。その時は、文章を「書く」ではなく、文章を「選ぶ」ということが仕事でしたが、九州ナンバーワンのコピーライターと真剣勝負をしていた経験は、私の大きな力になっているようです。そのような経験を持っていたことには、感謝しかありません。

さて、3年目に入った市長コラム、これからも思いを込めて「書く」ことを続けてまいります。

## 市営野球場がリニューアル

老朽化が進んでいた市営野球場のリニューアルと、塩浜運動場の駐車場及び防球ネット設置について、日本スポーツ振興センターのスポーツ振興くじ助成金及び鹿児島県の地域振興事業を活用し整備を行いました。

今回の整備では、野球場については、1塁側防球ネットの更新、本部棟裏から3塁側までの防球ネット(高さ20m)の新設、内野の表土入れ替え、外野擁壁の拡張及び球場内へのラバーフェンス設置を行っています。

このリニューアルにより、今まで軟式野球のみで利用可能としていた球場が、硬式野球でも利用できるようになりました。

また、塩浜運動場については、野球場との間をアスファルト舗装し、区画線を引くことにより、整然と駐車できるようにしたほか、防球ネット(高さ6m)を設置することにより、運動場を利用しスポーツをされる方々の安全性を確保しています。

今回の整備により、市民の皆さんがより楽しく、より安全にスポーツができる環境を整えましたので、多くの方々の利用をお待ちしております。



▲上空からの様子

## 今、新しい風が吹く ～野見山暁治展

文化勲章受章者で長年「風の芸術展」の審査員を務めた日本を代表する洋画家・野見山暁治氏の展覧会を開催します。

- 会期 5月2日(日)～30(日) 会期中無休
- 会場 南浜館
- 観覧料 一般300円、高大生200円、中学生以下は無料



▲「誰も振り向かない」(油彩)



## スポーツ・文化 イベント情報

南浜館  
 (開) 9:00～17:00  
 ※入館は16:30まで  
 (休) 毎週月曜日  
 ※月曜日が祝祭日の場合は翌日  
 (問) スポーツ・文化振興課  
 TEL72-9998

